

高井先生は天井に穴をあけた四人にどんなことを伝えたかったのだろう。

(またこの話を読んで感じたことを書いてみましょう。)

四人が弁償しますと言ったために高井先生は怒りたいたので「弁償しますというワードがキーワードではないかと思いました。高井先生が怒っている中に、それで責任をとるようになるのかと強く言っていて弁償→責任でははいくという事を伝えたかったのかなと思いました。弁償だけが責任をとる、という事ではなく四人にやらせたように協力し、一つの軌道を作ってがんばり直そうとする気持ちも責任になるという事も伝えたいのかなと思いました。

高井先生が言っていた、お母さんやお父さんが働いたお金で...という言葉はどんな時でもそうだね、と思いました。何かを買ってもらった時や物をこわしたりしてしまった時、そんな時にまわりかですませるのではなく、親が働いてもらったお金で買ってもらった物なんだという事をこら忘れたいです。

高井先生は、四人が正直に言いに来たことに対してはほめて認めてくれた。でも、弁償すると言ったことに対して怒った。その理由は、自分らがやってしまったことは、自分らで責任を持って直さないといけないし、関係ない人をまきこまず、自分らで直さないといけないからだと思う。中学生だから全ての行動に責任を持って、またそれを自覚して行動してほしいと高井先生は思っていたのだと思う。すぐに親の力をかりしなんとかしようという考えはいけないということも伝えたかったのだと思う。この話を読んで僕も責任を持って行動していきたいです。

先生は、「自分たちがしたことは大きな責任がある。その責任は自分たちがとらないといけない」ということを伝えたから、たんだと思います。トナリは親などが助けてくれたり、自分のかわりに責任をとってくれたりしたけど、自分のことが自分でできるようになってくるにつれて、自分のすることには大きな責任がついてくると思います。その責任をとるのは親でもなくお金でもなくて自分だと思います。だから、私もそういうことを考えながら、行動したり、話をしたいと思いました。

自分達でやってしまった失敗を他の人や親にたよるのではなく、自分達のカでどうにかできることもあるということも伝えたかったのだと思う。失敗してしまったことは仕方がない。でもその失敗をどうとりかえすかが、大事なんだと私は思う。隠せずに正直に言うことで、次どうするべきなのかを考えることができると思う。怒られるとわかった時に、健と次郎が悪いのは太一だと押しつけていたのは、よくないと思った。いっしょにやっていたから、みんな悪いと思う。

四人が天井に穴をあけてしまった。高井先生に「どうする？」

と聞かれたときに、お父さんとお母さんが一生懸命働いてくれた

お金で直すようにしたことに対して、「責任とはどんなものなのか」

を伝えてあげようとしたのだと思いました。

自分達がやらかしてしまったことは、責任を持って自分たちが

片付けないといけないし、中学校は大人になる土台を造るとき

だから、そこで先生が手をかけてあげるとその子たちも成長

できないから、終わるまで近く見守ってあげたんだと思います。

私は、公共の場の使い方や人のせいにはせず自分たちで
したことは自分たちで責任をもつ最後までやる力を
身につけてほしいから、たのみなと思いました。

天井に穴をあけてしまったという行動は

もうもとには戻らないから、その後、親に頼り

たいのせいだと人のせいにするのではなく

過ちを認めて「4人で責任をとることの重大さや

大変さ、したことの重みを先生は伝えてくれたと

思うし、4人も反省して責任をとることの大変さを

身にしてみたら感じたであろうなと思いました。

「責任をとる、口で言うのは簡単だけどそれを

行動にうつすのは難しいし、とても大変なことだなと

とても感じました。